

<報道関係各位>

JBL × デビュー10周年の I Don't Like Mondays. 特別企画 「TOUR PRO 3」発売と新作 EP のリリースを記念しアジアツアーの協賛決定！ メンバー愛用中の完全ワイヤレスイヤホンがお得に購入できるツアー来場特典をご用意 — 「FOCUS on TOUR PRO 3」スペシャルインタビューも実施 —

ハーマンインターナショナル株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役:桑原拓磨)は、アメリカ カリフォルニア発祥の世界最大級のオーディオブランド「JBL」から登場した完全ワイヤレスイヤホンのフラッグシップモデル「JBL TOUR PRO 3(ツアー プロ 3)」の発売を記念し、今年デビュー10周年を迎えるロックバンド・I Don't Like Mondays.(アイ・ドント・ライク・マンデイズ)の全国ツアー『“FOCUS” ASIA TOUR』にスポンサーとして協賛することをお知らせいたします。



今年デビューから10周年を迎え、集大成となる新作 EP『FOCUS』をリリースする I Don't Like Mondays.は、周年を記念し国内外をまわる全国ツアー『“FOCUS” ASIA TOUR』を開催。JBL は昨年開催された『Billboard Live Tour 2023 Special Encore』、『2023 A/W TOUR “RUNWAY”』に引き続き、本ツアーにもスポンサーとして協賛し、ともに周年を盛り上げてまいります。ツアーでは、来場者限定で、メンバーが愛用している JBL の新作完全ワイヤレスイヤホン「JBL TOUR PRO 3」をお得にお買い求めいただける特別クーポンもお渡しいたします。

また、I Don't Like Mondays.の10周年および「JBL TOUR PRO 3」の発売にあたり、EP 名にちなんだ「FOCUS」をテーマに、スペシャルインタビューを実施。10年間の音楽活動を経て改めて感じる「音楽の魅力」や、「JBL TOUR PRO 3」で聴いてほしい EP 内の“推し曲”についてなどお話しいただきました。新作 EP の制作の裏側やメンバーの皆さんの素顔が垣間見える内容にご注目ください。

「FOCUS on TOUR PRO 3」スペシャルインタビュー



▲左から、CHOJI さん(Guitar) / YU さん(Vocal) / KENJI さん(Bass) / SHUKI さん(Drums)

News Letter

Q. デビュー10周年を迎えて改めて考える「音楽の魅力」とは何でしょうか？

SHUKI さん: 僕自身の経験として、早い頃からドラムという楽器を始めていたので、鳥取県が地元ということもあって、同級生に同じレベルで楽器を演奏できる人がいないとなると、必然的に年上の人と一緒に音楽活動をしたりするんです。普段、音楽をやっていなかったら出会えないような人との繋がりがすごいなと思います。音楽があったからこそ繋がれる人とか、コミュニケーションツールとして、例えば、ライブに友達と行くとか、好きな曲を誰かに共有するという、人と人を繋げる力が音楽にはあるなと日々感じます。

KENJI さん: 自分ひとりでは持てない自信だったりとかを、音楽を聴くことによって、身にまとうことができるのは音楽の魅力のひとつかなと思います。

YU さん: 音楽ってひとりでも楽しめるんですけど、同時にたくさんの人と楽しめて、それが1人から2人、3人、4人…、さらに1万人とか10万人とか…その瞬間を同時に共有することができる喜びみたいなものは、なかなか音楽以外に巡り会えないだろうなと思います。共鳴できるということは、魅力の大きな部分を占めているところかなと思います。

CHOJI さん: 映画とかは2時間とかかかるし、そういうのに比べて音楽は感動をすぐに味わえるというか。そして、世界の人と言葉がなくても繋がりが合えるというのは、すごい力ですよね。

Q. ボーカル、ギター、ベース、ドラムと役割によって音楽に対する姿勢の違いはありますか？

SHUKI さん: このバンドは、みんな、楽器を人に表したくらい性格が楽器っぽいんですよね。僕なんかはドラムなので必然的にステージの1番後ろにいますので、後ろにいて周りを見渡すという立ち位置だったり。

KENJI さん: すごい冷静だよな。

SHUKI さん: KENJI はリズム隊を補いながらメロディーも担っているので、間を取り持つ人だよな。

YU さん: みんなを見てるとやっぱりそうですよね。CHOJI はすごいギターっぽいというか、表現したいところは表現したい、すごい攻め側というか。KENJI と SHUKI は守り、みたいな。それが後天的なものなのか先天的なものかわからないですけど。例えば KENJI は、このバンドの前はギターボーカルをやったのですが、その時からベースが似合ってた。だからもしかしたら先天的なもので、この楽器を選ぶ人生になったのかなと。

KENJI さん: 地元の友達にも、やっぱりベースだったよね！と言われます(笑)

Q. 普段どのようなときにイヤホンを使いますか？

KENJI さん: 移動がメインかな。

SHUKI さん: 最近だと制作でも、ミックスチェックでイヤホンを使って。

YU さん: 制作には最近取り入れたよね。今まではスピーカーやヘッドホンだったんですけど、最近は普段使っているイヤホン(前モデル「JBL TOUR PRO 2」)を使ったり。スピーカーじゃちょっと気づけなかったところに気づけるとかもありますね。

Q. イヤホンを選ぶ際に最も“FOCUS”(重視)してしまうポイントはなんですか？

SHUKI さん: 僕個人は、聴いてテンションが上がるとか、疲れすぎないとか、音の広がりとか…

YU さん: たくさんありますね(笑)

KENJI さん: 僕はベースやってるので、低音感ですかね。結構、爆音で聴いちゃってるので、それでも疲れにくい低音感がいいかにクリアに再現できているかというのが、イヤホンを聞き比べるときに注目してしまいます。

News Letter

YU さん: 自分が音楽をやる前は、イヤホンの音質の違いや特性というものがなんとなくでしかわからなかったんです。でも、自分たちで作った音楽って、「こういうを目指して作った」というものがあるって、作る側の視点から聴くと、「モノによってこんなに聴こえ方が違ったんだ！」と驚かされるんですね。自分が狙った音に近い音が体現できるイヤホンで、どうせなら聴きたいなって思います。

CHOJI さん: やっぱリテンションが上がるっていうのは結構大事ですね。あとは、着けたときの反応の速さみたいなのも大事ですね。ある程度値段を下回ると反応が遅かったりしますし…。ロー（低音）の再生とかも、そこそこないとダメな気がしています。自分の家に大きいスピーカーがないので、そのあたりをイヤホンでどうしても感じたいというのがありますね。

Q. 実際に、「JBL TOUR PRO 3」を着けてみてどうでしたか？

YU さん: もう色々すごそう！（笑）

SHUKI さん: デュアルドライバーなんで高音の密度がすごいあって。JBL のイヤホンって高音の鮮明度がすごいんですけど、そこに追いつくくらいのパワーのバランスがハマったなと。2 機入ってると思えないくらい軽い。疲れにくい。

YU さん: あと、JBL の「TOUR PRO」シリーズは、ペアリングがすごい楽。

KENJI さん: そう、めちゃくちゃ、楽。

SHUKI さん: わかる！（反応が悪いと）ストレスになるもんね。あとノイズキャンセリングも機能性が上がってますよね。

Q. 今回の EP『FOCUS』の中で「JBL TOUR PRO 3」で聴いてほしい“推し曲”は何ですか？

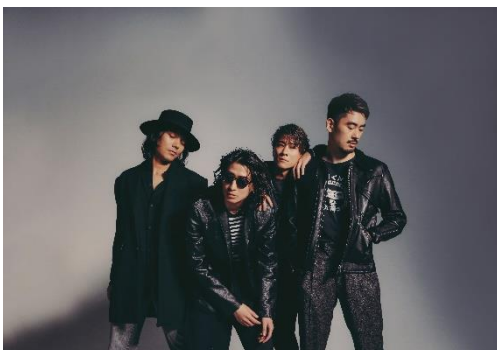
YU さん: 「Someday」。自分としては今まで積み上げてきたボーカルワークみたいなもので、今まで得られなかったことができた曲になってます。特に歌の透明感や伸びみたいなのが、かなり良い感じに録音できた。ここまで録音できたのは初めてなので、良いイヤホンで聴いていただくと、その透明感やスピード感を体感していただけるんじゃないかなと思います。

KENJI さん: 僕は「Sunset Girl」。今回の EP の中で 1 番編成がシンプルだし、無駄なものを入れていないので、そこをいかに気持ちよく聴けるかという感じですね。僕自身も今聴きたいです。

CHOJI さん: じゃあ…「Shadow」にしておこうかな。アコギのスピード感とか、ベースの重低音のフロー感の分離を感じれるのかなと思っていて、僕も楽しみです。

SHUKI さん: 今回の EP で苦労した点でもあるのですが…。生音の割合をめちゃめちゃ増やして、シンセサイザーとか打ち込みとかを減らしているんです。その分、ラフミックスでアレンジしている最中に、想像しきれないくらい、生音によって曲調が最終的に変わりすぎてしまうんです。打ち込みをメインにしてたら割と変化の差がなく最終まで持っていけるのですが。なので逆に言うと、ミックスがうまくいったときに生音の良さが前面に出るということを、今回痛感したんです。その中でも、生音が多い「Flower in the rain」という曲は、世界観の広さを重点的に作ったので、ぜひ爆音で聴いてほしいです。

<アーティストプロフィール>



I Don't Like Mondays. (アイ・ドント・ライク・マンデイズ)

80 年代サウンドをルーツに持ちながら、こだわり抜いた音作りとグルーブで邦楽と洋楽の垣根を超えていく<I Don't Like Mondays.>(通称:アイドラ)。その楽曲はまるで都会をドライブしているかのような高揚感を与える。TV アニメ『ONE PIECE』主題歌を担当したことで海外にも活動を広げ、アジア/南米/欧州からも注目される最新の彼らの姿をお見逃しなく。

“FOCUS” ASIA TOUR 10 月 19 日からスタート

・公式サイト: <https://idlms.com/>

News Letter

「JBL TOUR PRO 3」製品概要



▲KENJI さん・SHUKI さん愛用のブラック



▲YU さん・CHOJI さん愛用のラテ



- JBL 初デュアルドライバー搭載 & LDAC 対応で圧巻のサウンドテクノロジー
- さらに進化した新リアルタイム補正機能付ハイブリッドノイズキャンセリング 2.0
- 進化した新空間サウンド & 新搭載のヘッドトラッキング機能
- JBL 初採用の AI ノイズ低減アルゴリズム & 通話用 6 マイク搭載でよりクリアな音声体験
- より進化して使いやすくなったスマート充電ケース
- トランスミッター機能と AURACAST でエンターテインメントを拡張

・製品ページ: <https://jp.jbl.com/TOUR-PRO-3.html>

製品名	タイプ	カラー	発売日	価格
JBL TOUR PRO 3	ノイズキャンセリング搭載 完全ワイヤレスイヤホン	全 2 色 (ブラック/ラテ)	2024 年 10 月 3 日 (木)	オープン価格 ※JBL オンラインストア販売価格 42,900 円 (税込)

<JBL について>

美しい外観とプロ・サウンドを両立した家庭用スピーカーの開発を目指して設立。以来、あらゆる音楽が関わるシーンで、プロアマ問わず信頼され、愛用され続けている、世界最大級のオーディオメーカーです。

家庭用超高級スピーカーからイヤホン、ヘッドホン、ホームシアターを展開。また、トヨタを始めとする車載純正オーディオ、マルチメディア用などの民生機器から、世界中の映画館、スタジアム、コンサートホール、そして放送局やレコーディングスタジオなどが対象となる業務用機器を投入しています。JBL は世界中の競技場で音響システムとして採用されており、様々な世界的なスポーツイベントでも採用されています。

<ハーマンインターナショナル(米国本社/Harman International Industries, Incorporated)について>

ハーマンインターナショナルは、プレミアム・オーディオ、ビジュアル、コネクテッド・カーと、それらを統合したソリューションを、自動車、消費者、プロフェッショナルの市場に向けて、設計・製造・販売しています。弊社の AKG®, Harman Kardon®, Infinity®, JBL®, Lexicon®, Mark Levinson®, Revel®を含む主要ブランドは、オーディオ愛好家やアーティスト、イベント/コンサート会場などで多く利用され、称賛を受けています。また今日では、弊社のオーディオやインフォテインメント・システムが装備された自動車が世界で 5,000 万台以上走っており、弊社のソフトウェアサービスは、オフィスや家庭、車やモバイルなどあらゆるプラットフォームにおいて、何十億台ものモバイル端末やシステムが安全な接続や統合を行えるよう、支えています。ハーマンインターナショナルは全世界に約 30,000 名の社員が在籍しています。

お客様のお問い合わせ先

ハーマンインターナショナル株式会社

<https://support.jbl.com/jp/ja/contact.html/>

JBL オンラインストア

・ブランド公式サイト: <https://jp.jbl.com/>

・楽天市場: <https://www.rakuten.ne.jp/gold/jblstore/>

・Yahoo!店: <https://store.shopping.yahoo.co.jp/jblstore/>

・Amazon 店:

<https://www.amazon.co.jp/shops/A17VFVTKAPCY61>